

男女共同参画推進委員会 第 62 回年次大会シンポジウム報告

領域 「物理と社会」

主題 研究・教育の場における男女共同参画---女性研究者支援制度の現状と展望

プログラム

- 1) はじめに (二宮正夫：京大基研)
- 2) 第3期科学技術基本計画にそった施策について (山脇良雄：文科省科学技術政策局基盤政策課)
- 3) 日本学術振興会特別研究院制度における女性研究者支援策 (久保真希：元学振、現内閣府)
- 4) 北海道大学における女性研究者支援モデル (有賀早苗：北大院農)
- 5) 東北大学における女性研究者支援モデル (米永一郎：東北大金研)
- 6) 早稲田大学における女性研究者支援モデル (多辺由佳：早大理工)
- 7) 奈良女子大学における女性研究者育成 (岩淵修一：奈良女大理)
- 8) 女子中高生理系進路支援事業について (鳥養映子：山梨大院医工総合)
- 9) パネル討論会 (講師全員)

報告

昨年度から始まった様々な女性研究者支援制度について、行政担当者を交えた議論が行われた。山脇氏は、女性研究者支援を国として取組み始めた経緯について説明した。久保氏は、女性研究者が少ない理由についてデータ分析し、RPD制度の意義について述べた。有賀氏は、北大独自の女性教員採用のポジティブ・アクションについて、米永氏は、東北大が今年から導入した短時間勤務制度について報告した。多辺氏からは、附属高校を有する大学の特徴を生かした教育プログラムの紹介、岩淵氏からは、「魅力ある大学院教育イニシアチブ」における女性研究者育成プログラムの紹介があった。鳥養氏は、女子高生対象のイベントについて、海外の類似イベントとの比較などを交えて報告した。最後のパネル討論会では、現場の抱える問題点や制度改善の提案などたくさんの質問や意見が出た。参加者は35名程度。

田島節子 (阪大院理)